

2

「生ゴミ」は本当にゴミなのか？！ ～資源の大切さと循環を考える～

主 催 団 体	一般社団法人 南三陸研修センター 連絡先：〒986-0782 南三陸町入谷字鏡石 5-3 担当者：丹菊 龍也 ☎：0226-25-9501 e-mail：info@ms-lc.org		
プログラム概要	・南三陸町バイオガス施設「南三陸 BIO（ビオ）」の見学 ・ワークショップ活動を含めた資源循環理解についての講話		
ね ら い	南三陸町のバイオガス施設の見学を通し、身の周りの様々な「資源」の存在と、その重要性に気づく →「身の周りにも、再利用できるもの・未利用なものがあるかもしれない！」		
時 間	90 分 （45 分×2）		
対 象 学 年	小学 4 年生 ～ 6 年生		
関 連 教 科 等	4 年生 社会：ごみのしりと利用 5 年生 社会：これからの工業生産とわたしたち 5・6 年生 家庭：持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方、物を生かして住みやすく		
対 象 人 数	1 クラス（40 人まで）、引率教師最低 2 人必要 ※午前/午後で 2 クラスなどは可		
授 業 形 態	現地での体験活動		
場 所	[施設見学]南三陸 BIO [講話]南三陸まなびの里いりやど もしくは 学校の教室		
時 期	通年		
準 備 物	児童：工場の見学等もあるので動きやすい服装	教師：特になし	
留 意 事 項	特に工場見学では、安全に十分留意すること		
備 考	事前にゴミ処理やリサイクル等について学習済みだと理解が深まる。 「資源」という単語に触れられているとなお良い。		

【活動の様子】



プログラムの流れ（学習指導案） 90 分

学 習 活 動	時 間 (分)	主催団体及び教師の役割	
		主催団体の役割	教師側の役割（最低 2 人）
1 導入 “資源”ってなんだ ろう？	25	・自己紹介 ・今日のテーマについて説明する。 ○グループ活動「分け分けワークショップ」 ・いくつかのワードが書かれたカードを分類する。 ・「なにかに使っているもの」「なにかに使えそうなもの」「使えそうにないもの」を発表し、共有する。 →うち数個について取り上げ、掘り下げる。「本当にそうだろうか？」	・「いりやど」にてバスを降車する。 ○グループ活動の支援。 ・研修室にて 4 人程度のグループをつくり、着席させる。 ・グループ活動を見守り、適宜支援に入る。
2 南三陸町の取組み紹介	5	○身の周りの様々な「資源」の存在に気付かせる。 ・例えば生ごみも資源として再利用できる。 →「使えそうにないもの」もまだ使えるかもしれない。	
3 「南三陸 BIO」の見学	50	○施設の案内 ・南三陸のバイオガス施設を見学する。 ・生ごみがエネルギーと液肥に変わる様子を見る。	「南三陸 BIO」にバスで移動する。 ○点検と確認 ・整列と人数確認を行う。 ・指導者の言うことを聞くよう促す。 ・施設内のものに勝手にさわらないなど、安全への配慮に気を配る。 ・忘れ物がないか確認させる。
4 まとめ、振り返り ・感想発表 ・挨拶	10	○活動の感想を発表させる。 ・キーコンセプトへ誘導する。 [key①] 使えるものがたくさんあるね [key②] 再利用できるものがあるね [key③] 未利用のものもあるね ○考えを深めさせる。 →「ほかにはどんなものがあるだろうか？」 ○用語や概念の説明を行う。 ・ひとのくらしや活動・仕事などに使えるものを“資源”という。資源は私たちの周りにたくさん溢れている。 ・資源の中にはくりかえし利活用できるものがある。くりかえし巡り巡ることを“循環”という。いろいろなものが循環する社会をつくれたら素晴らしい事である。 ・挨拶して終了する。	○感想が出ない場合、教師が支援に入る。 ・指導者の話を反復する。 ・施設にはどういったものがあつたか。 ○現地解散。

* 備考 : 事後授業として、「ほかに循環資源として利活用できそうなものはなにがあるか」や「自分の地域でできる循環のスタイル」などについて、学びを発展させられると良い。